

令和7年1月8日

保護者の皆様

昭島市立富士見丘小学校

校長 稲垣 達也

おかげさまで

謹んで初春のお慶びを申し上げます。皆様のおかげをもちまして、清新たる新年を穏やかに迎えることができました。心より感謝申し上げます。

今年の干支“乙巳（きのとみ）”は、「再生や変化を象徴する年」と言われ、粘り強い努力の積み重ねが「成長」「変革」につながり、結実するとされています。

本校では、さらなる「成長」「変革」に向けて、これまでの固定観念にとらわれず、柔軟な心と知恵を持って、鋭い洞察力で新たな可能性を切り拓く一年にして参ります。

生きているということは

放送作家・作詞家の永六輔氏の「生きているということは」という詞の冒頭を紹介します。

生きているということは	誰かに借りを作ること
生きていくということは	その借りを返していくこと
誰かに借りたら	誰かに返そう
誰かにそうして貰ったように	誰かにそうしてあげよう

私たちは、直接会ったことのない人々、どこかの見知らぬ人々、そんな「誰か」に借りを作りながら生きているのだと、そうしなければ生きていけないのだと。

この「借り」という言葉は“恩”と言い換えても良いでしょう。生きているということは、誰かから何かしら“恩”をいただいているということ。

忘れてはいけません。

人は一人では生きていきません。誰も一人では歩いていけないのです。

おかげさまで

そのような思いから、二学期の終業式では、「おかげさま」のお話をしました。

「かげ」に、「お」と「さま」が付いて「おかげさま」となります。「かげ」とは、日なた日かげの‘影’という意味もありますが、‘陰＝見えないもの’という意味です。陰で頑張っているとか、陰で応援しているとか使いますね。

私たちは、気付かないところで、いつもたくさんの人たちに支えられて生きています。学校の中だけでも、お友だち、担任の先生、音楽や図工の先生、保健室の先生、それだけでなく、事務室や給食室の方たち、見えないところで、陰で、たくさんの人たちが仕事をしています。

子供たちは気付いているのでしょうか？

たとえば、用務主事さんたちがいつも学校をきれいにして守ってくれています。真夏の暑い日も、真冬の寒い日も、外でお仕事をしてくれています。もっともっと見えないところで、陰で、たくさんの人たちが関わっています。

それが、「おかげさま」です。

私たちは、決して自分一人で生きているのではなく、生かされているのです。そのことに気付いた時に出てくる感謝の言葉が「おかげさま」なのです。「かげ」に「お」や「さま」を付けたくなるような深い“恩”に対する“感謝”なのです。

幸せを感じる心

このように、私たちの回りには素晴らしい出来事、感動するような場面、そういったものがあふれています。そこに気付けば、平穩無事の毎日に大きな幸せを感じることができるのですが…。

ところが、私たちは、この日常生活の有難さに気付けない存在でもあります。

今や、世界は混沌としており、相手を助けることよりも自分の利益優先、力を持つことが正義、そういった幻の平和に惑わされている時代とも言えます。「自分さえ良ければいい」「他人はどうなっても構わない」という利己主義の時代に、私たちは、たくさんの人々から支えられて生活していることに気付くことができるでしょうか？

「ああして欲しい」「こうして欲しい」と、誰かに何かを求めたり、ねだったりすることは、本当に簡単なことで、誰にできます。そうではなく、「己の欲するところを人に欲せ」という教えのように、自分が誰かからしてもらいたいことを、誰かにしてあげることができてこそ、幸せを感じることができるのではないのでしょうか？

私たちは、こういった時代の混乱に巻き込まれることなく、私たちの穏やかな日常が、世界の平穩につながっていくのだという気持ちで、責任ある行動をしていきたいと強く思います。

おかげさまを惜しまない

遙か彼方から連綿と続いてきた者に対する「おかげさま」。

見知らぬ人々とのご縁を総称して「おかげさま」。

無意識のうち支えてくださっているたくさんの「おかげさま」。

私たちは、この見知らぬ「おかげさま」に対して、いささか想像力を失っていないのでしょうか？

誰かも分からぬ「おかげさま」。

目に見えない「おかげさま」。

「おかげさま」という感謝の気持ちを惜しんでいないのでしょうか？

私たちは、「おかげさま」を惜しんでしまうと、優しさや思いやりの気持ちも惜しんでしまうような気がします。「おかげさま」を、これから毎日惜しみなく使っていきましょう。

私たちの幸福は、「おかげさま」という感謝の言葉を惜しまずに実践できる勇気があるかどうか、結局そういうことなんだろうと思います。

富士見丘小学校を、たくさんの「おかげさま」であふれさせましょう。

結びに、新しい年が皆様にとりまして明るく実り多き年になりますよう心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。